『思ひ出』序

太宰治

青空文庫

所收――「思ひ出」「ダス・ゲマイネ」「二十世紀旗手」「新樹の言葉」「富嶽百景」「餘瀝　近事片々」

「思ひ出」

けふまで創作集が五册出てゐるから、それぞれの出版主にお願ひして、一册から一篇づつ拔き取ることを許してもらつた。

「思ひ出」は、昭和七年に書いた。二十四歳である。自分を、「いい子」にしないやうに氣をつけて書いた。その翌年、「海豹」といふ同人雜誌に三囘にわけて連載した。

これは、砂子屋書房版「晩年」の中に編入されて在る。「晩年」は、私の第一創作集である。なるべく、併讀していただきたい。

「ダス・ゲマイネ」

「ダス・ゲマイネ」は、昭和十年に書いた。二十七歳である。

Das Gemeine は、通俗性の意である。人の心の奥底に必ず、巢食つてゐるものである。同年、文藝春秋に發表した。これは、新潮社版「虛構の彷徨」の中に編入されて在る。あまり賣れなかつたやうである。出版部の長沼さんも、氣の毒がつて居られた。

「二十世紀旗手」

「二十世紀旗手」は、昭和十一年に書いた。苦しまぎれに書いた。むきなものも、こもつて在ると思ふ。翌年度の、改造新年號に發表した。

これは、版畫莊文庫「二十世紀旗手」の中に編入されて在る。當時、私に就いての惡評を意とせず、私の創作集を默つて出版してくれた版畫莊主人の厚意は、いまも忘れてゐない。

「新樹の言葉」

「新樹の言葉」は、昭和十四年に書いた。からだも丈夫になつた。すべて新しく出發し直さうと思つて書いた。言ふは易く、實證はなかなか困難の樣子である。

これは、竹村書房版「愛と美について」の中に編入されて在る。「愛と美について」には、五つの創作が收められてゐるが、五篇とも、どの雜誌にも發表しないで、いきなり單行本として出版したのである。前例の少い事と思ふ。私のわがままを許容して、そのやうな冒險を敢へてしてくれた竹村書房主に、あらためて禮を言ひたい。

「富嶽百景」

「富嶽百景」は、昭和十四年に書いた。スケツチの連續である。同年、純文藝册子、「文體」

に二回にわけて發表した。

これは、砂子屋書房版「女生徒」の中に編入されて在る。砂子屋書房の山崎さんには、第一創作集の時から、實に世話になつた。これからも、世話になるかも知れない。

之等、五つの小説は、決して傑作では無い。けれども、「思ひ出」といふ標題を打つて、一本にまとめてみると、自らまた別の感慨も湧くのである。きのふ迄の、三十年の生涯の、冗談でない思ひ出になつてゐるのである。

「餘瀝　近事片々」（「正直ノオト」「春晝」「市井喧爭」「酒ぎらひ」「困惑の辯」「知らない人」「心の王者」「鬱屈禍」）

以上の五篇の創作にて、私のこれまで歩いて來た經過の、だいたいは、推察していただける事と思ふ。けれども今この五篇のみを纏めて一本としようとしても、これだけでは、どうやら枚數に於いて不足の樣子であるから、卷末に、餘瀝として、昨年四月から、今年三月にいたる間の、時々刻々の隨筆を五六、附加した。その後の作者の消息も、わかる事と思ふ。氣輕く、讀んでみて下さい。

私の仕事は、これからであると思つてゐる。

昭和十五年四月

青空文庫情報

底本：「太宰治全集11」筑摩書房
　　1999（平成11）年3月25日初版第1刷発行
初出：「思ひ出」人文書院
　　1940（昭和15）年6月1日発行
入力：小林繁雄
校正：阿部哲也
2012年1月7日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

『思ひ出』序

太宰治

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/